



資源に変えるチカラ、自然に還すチカラ。

大栄環境株式会社

**2023年3月期
決算説明資料**

2023年5月12日



エグゼクティブ・サマリー

業績	2023年 3月期 実績	<ul style="list-style-type: none"> 売上高 67,658 百万円 (前期比 + 4.1%) 営業利益 16,623 百万円 (前期比 +29.5%)
	2024年 3月期 計画	<ul style="list-style-type: none"> 売上高 71,037 百万円 (当期比 + 5.0%) 営業利益 16,140 百万円 (当期比 ▲ 2.9%)
重要施策 の進捗	2023年 3月期 実績	<ul style="list-style-type: none"> メタン発酵施設 2022年 11月 稼働開始 (320 t/日) 堆肥化施設 2022年 10月 稼働開始 (92 t/日) 管理型最終処分場 3か所で供用開始、1か所で着工許可 (いずれも増設) 公民連携事業 2023年 2月 協定締結 (3か所目) ケミカルリサイクル 2022年 8月 ガス化及びメタノール化実証事業 開始 コーポレート・ガバナンス 2022年 9月 サステナビリティ推進委員会 設置
	2024年 3月期 計画	<ul style="list-style-type: none"> 焼却発電施設 2023年 6月 稼働開始予定 (440 t/日) プラ新法*1への対応 2023年 4月 再資源化事業計画 認定取得 ケミカルリサイクル 2024年 3月 ガス化及びメタノール化実証事業 実証終了 (商用化検討ステージへ)

*1: 正式名称「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」

アジェンダ

1

大栄環境グループについて

2

2023年3月期 実績

3

2024年3月期 計画

4

株主還元

5

成長戦略

6




Appendix

1. 大栄環境グループについて

会社概要

会社名	大栄環境株式会社	2023年3月期実績（連結）	
設立年	1979年	売上高	676億円
代表取締役社長	金子 文雄	営業利益	166億円 (営業利益率：24.6%)
従業員数*1	2,469名 (連結、2023年3月31日現在)	EBITDA*3	222億円 (EBITDAマージン：32.9%)
所在地	兵庫県神戸市東灘区向洋町中二丁目9番地1 神戸ファッションプラザ*2	親会社株主に帰属する 当期純利益	104億円 (親会社株主に帰属する当期純利益率：15.5%)

環境関連事業*4	その他*4 (有価資源リサイクル事業)
<ul style="list-style-type: none"> セグメント売上高：654億円 (全社売上高比率：97%) セグメント利益：167億円 	<ul style="list-style-type: none"> セグメント売上高：21億円 (全社売上高比率：3%) セグメント利益：1億円

<p>廃棄物処理・資源循環 </p> <p>収集運搬から中間処理・再資源化及び最終処分まで、 廃棄物を資源と考え、ワンストップサービスを展開</p> <p>全社売上高比率：83.5%</p>	<p>土壌浄化 </p> <p>土壌汚染対策法に基づき、調査・コンサルティングから 浄化処理までのソリューションを提供</p> <p>全社売上高比率：8.8%</p>	<p>アルミペレット </p> <p>資源として買い取ったアルミ缶を 原料に、アルミペレットを 製造・販売</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>施設建設・運営管理</p> 	<p>コンサルティング</p> 	<p>エネルギー創造</p> 	<p>森林保全</p> 	<p>その他</p> 	<p>リサイクルプラスチック パレット </p> <p>容器包装プラスチックを主原料とした リサイクルプラスチックパレットを 製造・販売</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

*1： 正社員及び臨時雇用者数含む（臨時雇用者数は年間平均雇用人員数）
*2： グループ本部所在地

*3： EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額、EBITDAマージン=EBITDA/売上高
*4： 記載数値は2023年3月期実績。セグメント利益はセグメント間の連結調整額を含む

大栄環境グループの概観

連結子会社・事業展開エリア

連結子会社*1

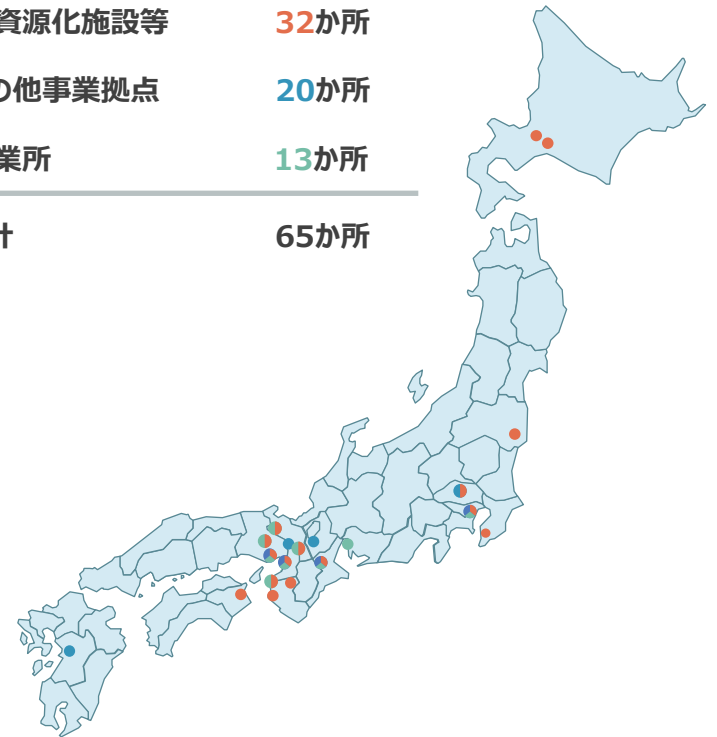
大栄環境(株)

30社

三重中央 開発(株)	DINS関西(株)	(株)共同土木	(株)ジオレ・ ジャパン
(株)摂津清運	(株)セーフティ アイランド	京都 かんきょう(株)	(株)神戸 ポートリサイクル
大栄アメット(株)	(株)摂津	(株)クリーン ステージ	三基開発(株)
(株)総合農林	資源循環 システムズ(株)	近江八幡 エコサービス(株)	(株)クワイ ナビ
(株)グリーン アローズ関西	(株)ソフトウェア トータルサービス	(株)丸与商店	(株)デインズ 環境分析センター
(有)芦屋浄水	(株)アイエスブイ・ ジャパン	(株)大栄環 境総研	DINS 北海道(株)
(株)プラ ファクトリー	(株)東北 エコクリーン	DINS みらい(株)	忠岡 エコサービス(株)
農事組合法人 ねぎぼーず	農事組合法人 槇の里	※ : M&Aにより当社の グループ会社となった会社 17社	

事業展開エリア（廃棄物処理・資源循環等事業拠点）*2

● 再資源化施設等	32か所
● その他事業拠点	20か所
● 営業所	13か所
合計	65か所

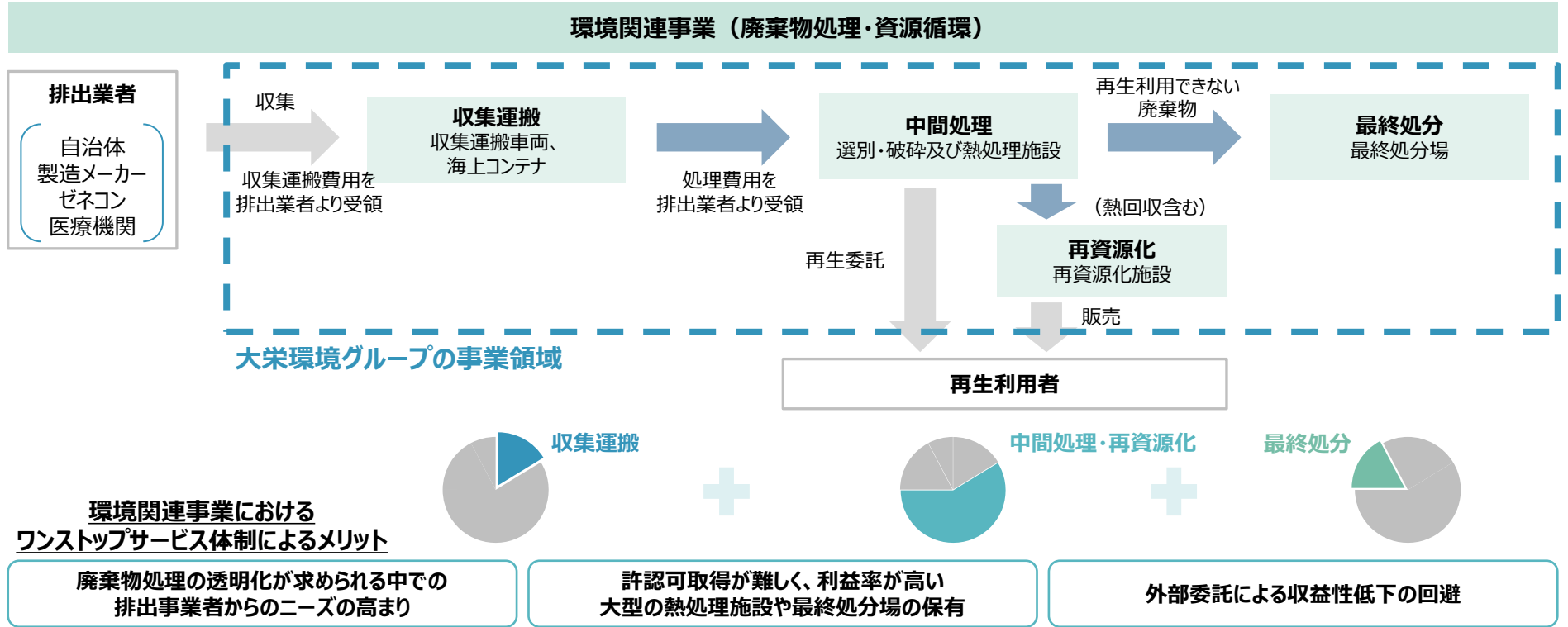


*1: 2023年3月末時点、記載の連結子会社に加え、非連結子会社2社、持分法適用関連会社5社、持分法非適用関連会社7社あり

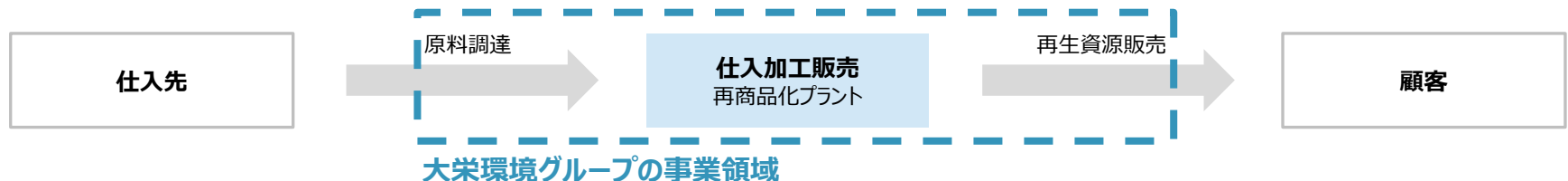
*2: 2023年3月末時点、一部プロットには事業所の重複あり。持分法適用関連会社5社の拠点も含む（その他の関連会社の拠点数は重要性の観点から割愛）

ビジネスモデル（主なビジネスフロー）

各セグメントのビジネスモデル



その他（有価資源リサイクル事業）



大栄環境の沿革・歩み

最終処分事業からスタートし、事業の永続性を図るために、いち早く減容及びリサイクルにシフトし、その後、土壌浄化、施設建設・運営管理、コンサルティング、エネルギー創造、森林保全等、環境に係る幅広い事業を展開してきました。



*1： 中期経営計画の目標は、P41を参照

注： 背面の折れ線グラフは、売上高と営業利益の推移のイメージ図、■：売上高、■：営業利益

2021年、2025年3月期を除く売上高、営業利益は、グループ主要会社4社（大栄環境、三重中央開発、DINS関西、共同土木）の単純合算（未監査）の数値、2021年、2025年3月期は連結決算の数値

2. 2023年3月期 実績

2023年3月期 実績

連結損益計算書

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
売上高	64,992	67,658	+4.1%
営業利益	12,840	16,623	+29.5%
営業利益率	19.8%	24.6%	+4.8pt
EBITDA	19,826	22,250	+12.2%
EBITDAマージン	30.5%	32.9%	+2.4pt
経常利益	13,304	16,702	+25.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,870	10,494	+18.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益率	13.6%	15.5%	+1.9pt

2023年3月期 実績

連結損益計算書（四半期毎）

(百万円)	2023年 3月期 第1四半期	2023年 3月期 第2四半期	2023年 3月期 第3四半期	2023年 3月期 第4四半期	2023年 3月期 通期
売上高	16,174	16,318	17,296	17,869	67,658
営業利益	3,389	3,757	4,111	5,365	16,623
営業利益率	21.0%	23.0%	23.8%	30.0%	24.6%
EBITDA	4,743	5,167	5,600	6,738	22,250
EBITDAマージン	29.3%	31.7%	32.4%	37.7%	32.9%
経常利益	3,459	3,867	4,005	5,370	16,702
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,387	2,376	2,443	3,286	10,494
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益率	14.8%	14.6%	14.1%	18.4%	15.5%

2023年3月期 実績

セグメント別

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
環境関連事業			
売上高	63,154	65,472	+3.7%
セグメント利益	12,975	16,715	+28.8%
セグメント利益率	20.5%	25.5%	+5.0pt
その他（有価資源リサイクル事業）			
売上高	1,838	2,185	+18.9%
セグメント利益	106	134	+26.4%
セグメント利益率	5.8%	6.2%	+0.4pt

2023年3月期 実績

セグメント別（四半期毎）

(百万円)	2023年 3月期 第1四半期	2023年 3月期 第2四半期	2023年 3月期 第3四半期	2023年 3月期 第4四半期	2023年 3月期 通期
環境関連事業					
売上高	15,532	15,797	16,782	17,360	65,472
セグメント利益	3,367	3,796	4,149	5,401	16,715
セグメント利益率	21.7%	24.0%	24.7%	31.1%	25.5%
その他（有価資源リサイクル事業）					
売上高	642	520	514	509	2,185
セグメント利益	59	13	36	25	134
セグメント利益率	9.3%	2.6%	7.0%	5.0%	6.2%

2023年3月期 実績

事業領域別売上高

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
環境関連事業			
廃棄物処理・資源循環	56,263	56,489	+0.4%
土壌浄化	3,915	5,970	+52.5%
その他	2,975	3,012	+1.2%
その他（有価資源リサイクル事業）			
アルミペレット	1,394	1,624	+16.5%
リサイクルプラスチックパレット	443	561	+26.6%

2023年3月期 実績

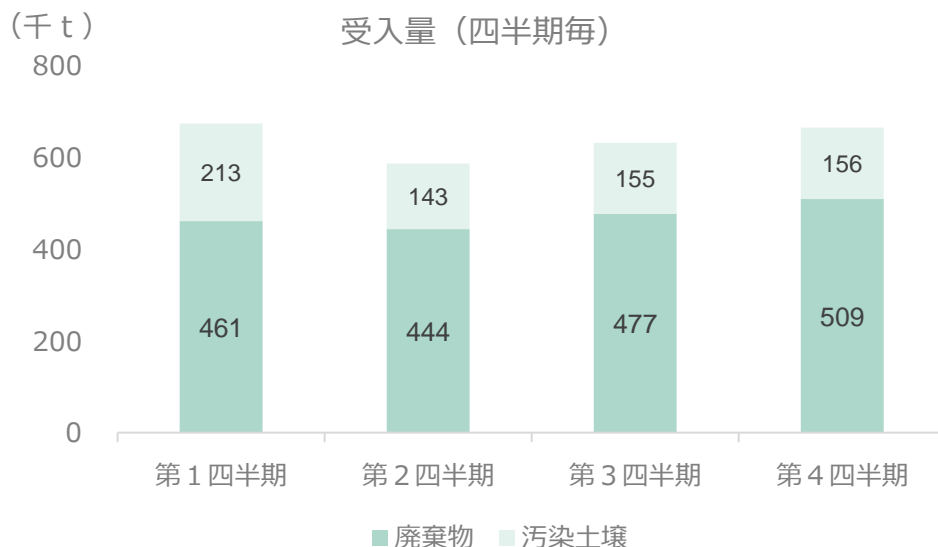
事業領域別売上高（四半期毎）

(百万円)	2023年 3月期 第1四半期	2023年 3月期 第2四半期	2023年 3月期 第3四半期	2023年 3月期 第4四半期	2023年 3月期 通期
環境関連事業					
廃棄物処理・資源循環	13,856	13,448	14,428	14,755	56,489
土壌浄化	1,353	1,357	1,694	1,565	5,970
その他	322	991	659	1,038	3,012
その他（有価資源リサイクル事業）					
アルミペレット	505	381	373	363	1,624
リサイクルプラスチックパレット	136	138	140	145	561

2023年3月期 実績

廃棄物・汚染土壌受入量

(千 t)	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
廃棄物受入量	1,901	1,893	▲0.4%
汚染土壌受入量	406	668	+64.3%



廃棄物受入量

- 昨秋以降の経済回復に伴い、第4四半期は前期比で受入量が増加に転じたものの、通期では0.4%の減少とほぼ前期並み

汚染土壌受入量

- 関西地方の再開発工事等をはじめ、広範囲でスポット案件を受注し、受入量が大幅に増加

2023年3月期 実績

設備投資額・減価償却費・のれん償却額

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
設備投資額	17,659	12,934	▲4,724
減価償却費	6,249	5,413	▲835
のれん償却額	736	212	▲523

設備投資額

- 伊賀リサイクルセンターや三木バイオマスファクトリー、子会社の最終処分場等への投資を計画に沿って実施

減価償却費

- 昨秋に稼働開始した伊賀リサイクルセンターのメタン発酵施設は、試運転終了後の2023年4月より償却を開始

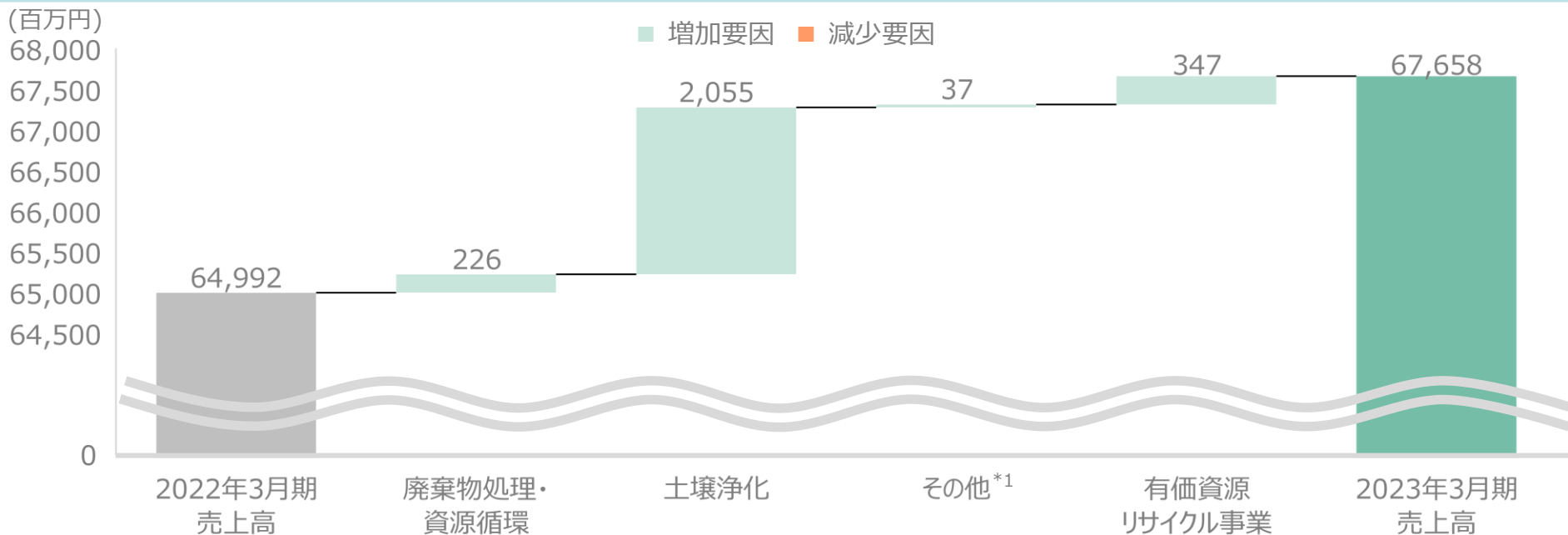
のれん償却額

- 2022年3月期で子会社の共同土木ののれん償却終了

2023年3月期 実績

連結売上高増減分析

- ✓ 廃棄物処理・資源循環 : 上期はエネルギー・資機材高騰等の影響による経済活動の停滞で、受入量が減少、昨秋以降の経済回復により下期で挽回し、ほぼ前期並みで着地
- ✓ 土壌浄化 : 関西地方の再開発工事等をはじめ、広範囲でスポット案件を受注し、受入量が大幅に増加
- ✓ 有価資源リサイクル事業 : アルミペレットはアルミ市況が高値で推移し、売上高が増加、リサイクルプラスチックパレットは製造ライン増強により、販売量が増加

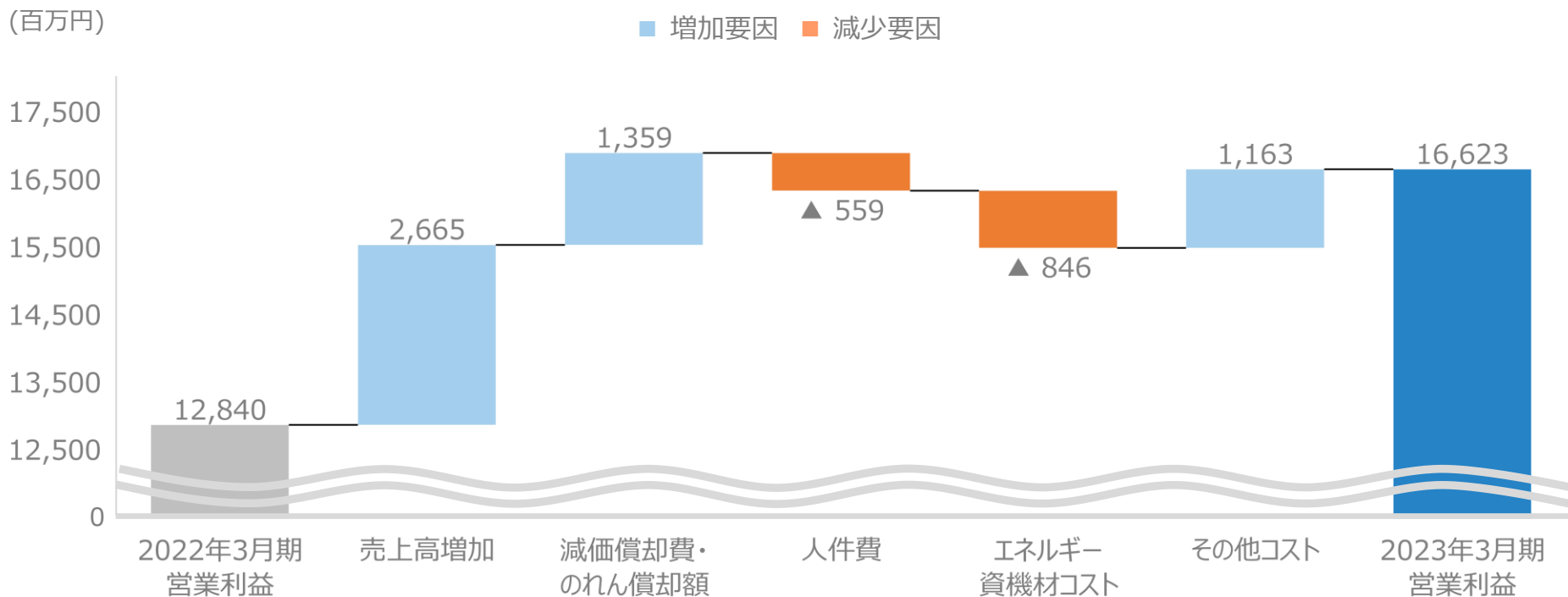


*1: その他は、環境関連事業における廃棄物処理・資源循環、土壌浄化以外の事業領域の数値を合算

2023年3月期 実績

連結営業利益増減分析

- ✓ 減価償却費とのれん償却額が減少
- ✓ ウクライナ情勢の悪化等によるエネルギー・資機材の高騰により、コストが増加
- ✓ 子会社における収益改善等により、その他のコストを圧縮



2023年3月期 実績

連結貸借対照表

(百万円)	2022年 3月期末	2023年 3月期末	前期比
現金及び預金	57,845	51,410	▲6,435
受取手形及び売掛金	9,409	10,089	679
その他流動資産	4,554	4,568	13
流動資産	71,810	66,068	▲5,742
有形固定資産	69,943	80,519	10,576
のれん	1,025	812	▲212
その他固定資産	15,503	15,807	303
固定資産	86,472	97,139	10,667
繰延資産	0	407	407
資産合計	158,282	163,615	5,333
有利子負債	79,812	63,403	▲16,408
その他負債	18,399	21,242	2,843
負債合計	98,211	84,646	▲13,565
純資産合計	60,070	78,969	18,898
負債純資産合計	158,282	163,615	5,333

有形固定資産

- 計画的な設備投資に伴い増加

純資産

- 新規上場による資金取得により、資本金及び資本準備金がそれぞれ5,348百万円増加

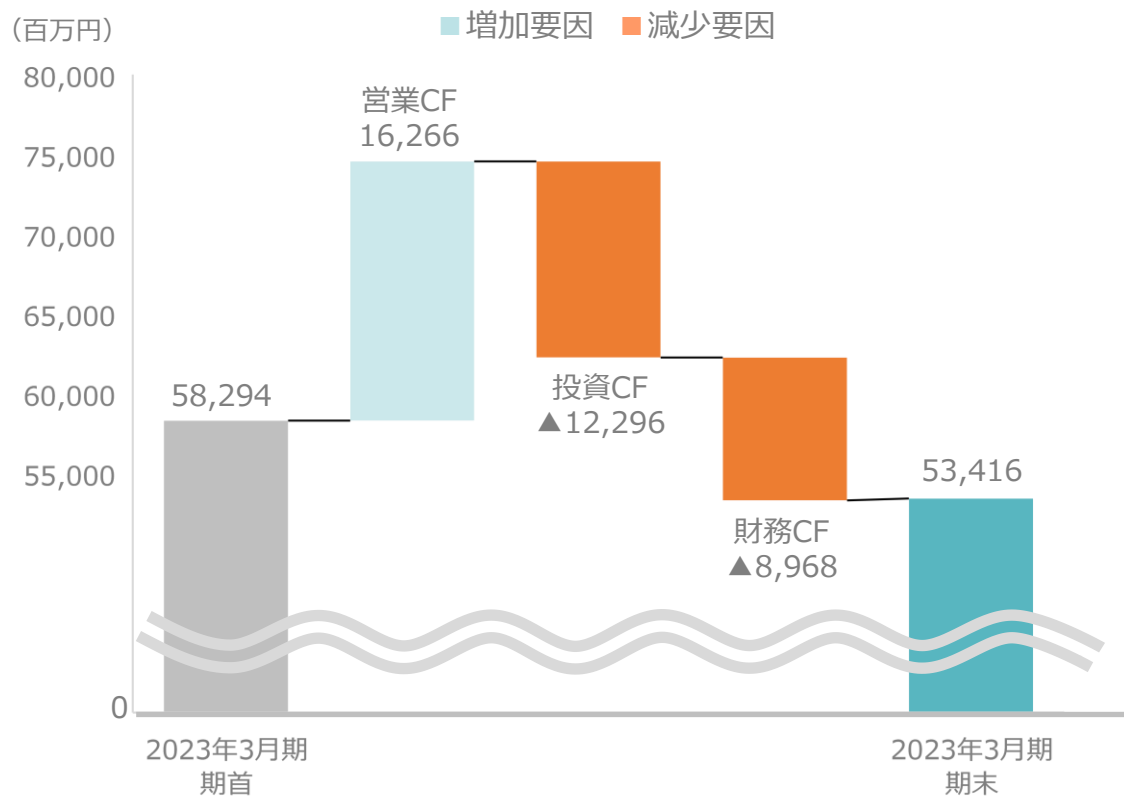
現預金及び有利子負債

- 両建て保有額を計画的に圧縮

2023年3月期 実績

キャッシュ・フロー計算書

✓フリー・キャッシュ・フローに関しては、3,970百万円で、前期比で2,370百万円の増加



営業活動によるキャッシュ・フロー

- 税引前当期純利益 +16,459
- 減価償却費 +5,413
- 法人税等の支払額 ▲6,081

投資活動によるキャッシュ・フロー

- 有形固定資産の取得による支出 ▲12,934

財務活動によるキャッシュ・フロー

- 長期借入金の返済による支出 ▲15,348
- 株式の発行による収入 +10,239
- 配当金の支払額 ▲2,747

注： 2023年3月期の期首と期末の増減要因は、グラフに記載のCFのほか、現金及び現金同等物に係る換算差額（+120）が含まれております

2023年3月期 実績

資本効率性・レバレッジ指標

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期比
EBITDAマージン	30.5%	32.9%	+2.4pt
ROE*1	15.7%	15.2%	▲0.5pt
ROIC*2	11.5%	13.1%	+1.6pt
ネットD/Eレシオ*3	0.4×	0.1×	▲0.3×

注： 各指標の調整過程については、P55以降に記載

*1： ROE = 親会社株主に帰属する当期純利益 / 自己資本（期首期末平均）

*2： ROIC = NOPAT（税引後営業利益） / 期首投下資本、投下資本 = 固定資産 + 流動資産（現預金除く） - 流動負債（有利子負債除く）、有利子負債 = 社債 + 借入金 + リース債務等

*3： ネットD/Eレシオ = （有利子負債 - 現金及び現金同等物） / 自己資本

3. 2024年3月期 計画

2024年3月期 計画

計画のポイント

売上

大阪・関西万博をはじめとする大型開発工事が本格化すること等により、廃棄物・汚染土壌ともに排出量の増加を想定

大型施設の本格稼働に伴い、受入量増加を想定

脱炭素化や循環経済への転換に向けて、プラ新法の認定施設を活用した営業活動を展開

利益

大型施設の稼働開始に伴う減価償却費の増加、その他コストも増加を想定

2024年3月期 計画

連結損益計算書

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 計画	前期比
売上高	64,992	67,658	71,037	+5.0%
営業利益	12,840	16,623	16,140	▲2.9%
営業利益率	19.8%	24.6%	22.7%	▲1.9pt
EBITDA	19,826	22,250	22,810	+2.5%
EBITDAマージン	30.5%	32.9%	32.1%	▲0.8pt
経常利益	13,304	16,702	16,338	▲2.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,870	10,494	10,416	▲0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益率	13.6%	15.5%	14.7%	▲0.8pt

2024年3月期 計画

セグメント別

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 計画	前期比
環境関連事業				
売上高	63,154	65,472	69,078	+5.5%
セグメント利益	12,975	16,715	16,260	▲2.7%
セグメント利益率	20.5%	25.5%	23.5%	▲2.0pt
その他（有価資源リサイクル事業）				
売上高	1,838	2,185	1,959	▲10.4%
セグメント利益	106	134	143	+6.6%
セグメント利益率	5.8%	6.2%	7.3%	1.1pt

2024年3月期 計画

事業領域別売上高

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 計画	前期比
環境関連事業				
廃棄物処理・資源循環	56,263	56,489	60,039	+6.3%
土壌浄化	3,915	5,970	5,938	▲0.5%
その他	2,975	3,012	3,099	+2.9%
有価資源リサイクル事業				
アルミパレット	1,394	1,624	1,352	▲16.7%
リサイクルプラスチックパレット	443	561	606	+8.1%

2024年3月期 計画

廃棄物・汚染土壌受入量

(千 t)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 計画	前期比
廃棄物受入量	1,901	1,893	1,992	+5.2%
汚染土壌受入量	406	668	635	▲4.9%

廃棄物受入量

- 伊賀メタン発酵施設や三木バイオマスファクトリーの本格稼働による受入量増加を想定

汚染土壌受入量

- 再開発工事等、大型スポット案件の継続受注により受入量は2023年3月期と同程度の水準を想定

2024年3月期 計画

設備投資額・減価償却費・のれん償却額

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期 計画	前期比
設備投資額	17,659	12,934	14,391	+ 1,457
減価償却費	6,249	5,413	6,472	+ 1,059
のれん償却額	736	212	197	▲ 15

設備投資額

- 持続可能な成長に向けた投資*1を計画に沿って実施

主な成長投資：三木バイオマスファクトリー

4,186百万円

三重中央開発 第8期最終処分場（2期工事）

1,726百万円

減価償却費

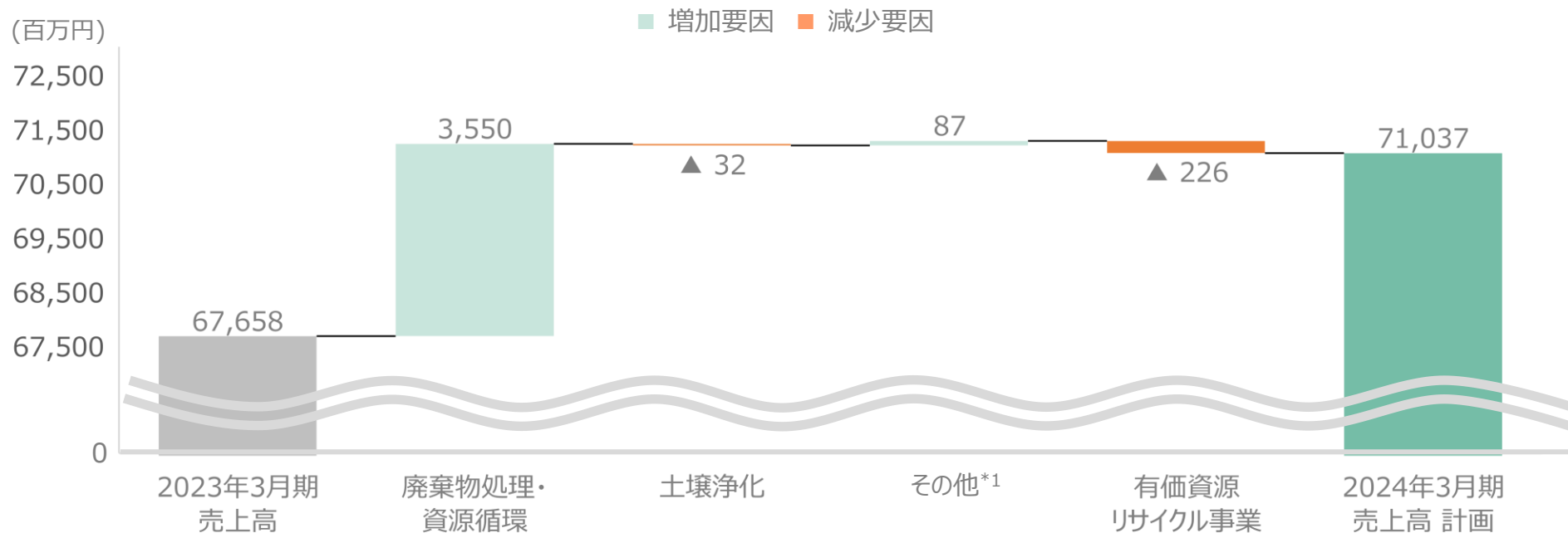
- 伊賀メタン発酵施設及び三木バイオマスファクトリーの減価償却が開始

*1: 持続可能な成長に向けた投資の計画は、P45を参照

2024年3月期 計画

連結売上高増減分析

- ✓ 廃棄物処理・資源循環 : 伊賀メタン発酵施設及び三木バイオマスファクトリーの本格稼働による増収を見込む
- ✓ 土壌浄化 : 再開発工事等、大型スポット案件の継続受注により横ばいでの推移を見込む
- ✓ 有価資源リサイクル事業 : アルミ相場の弱さから減収を見込む

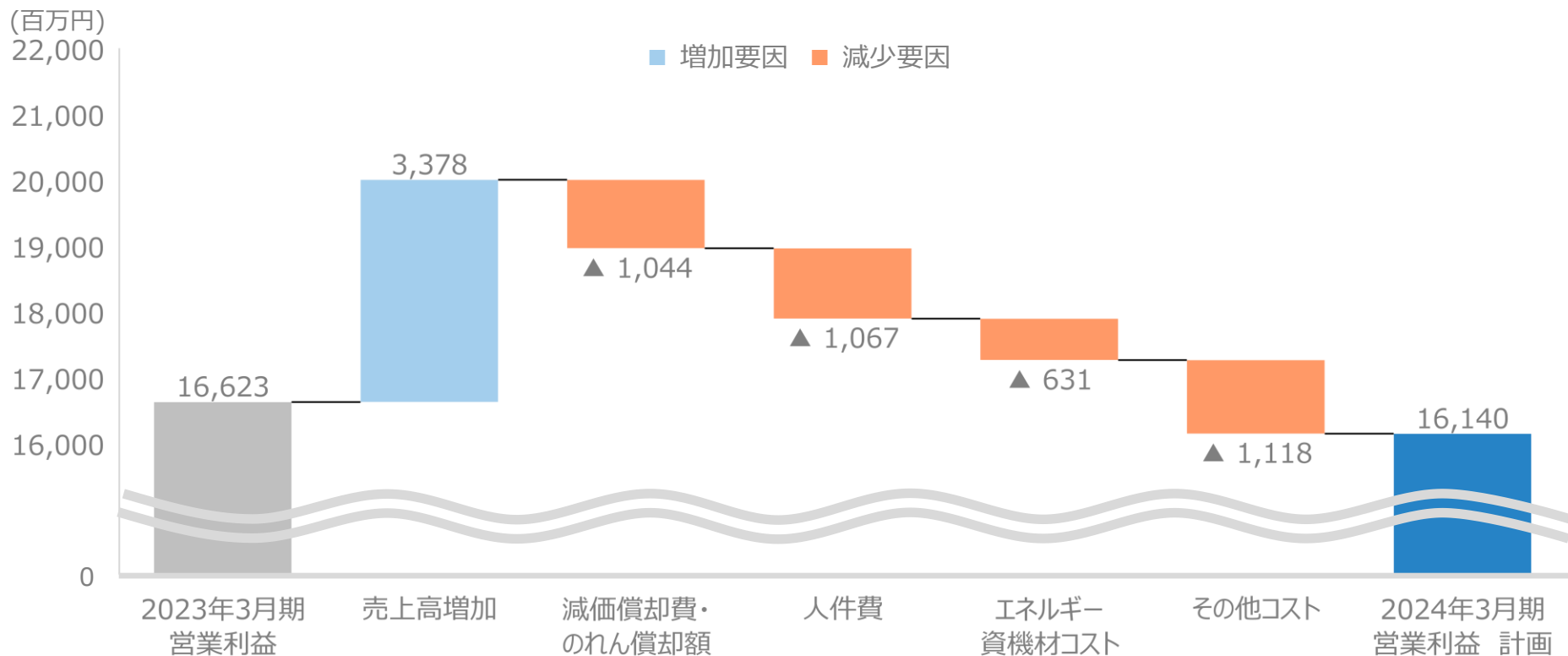


*1: その他は、環境関連事業における廃棄物処理・資源循環、土壌浄化以外の事業領域の数値を合算

2024年3月期 計画

連結営業利益増減分析

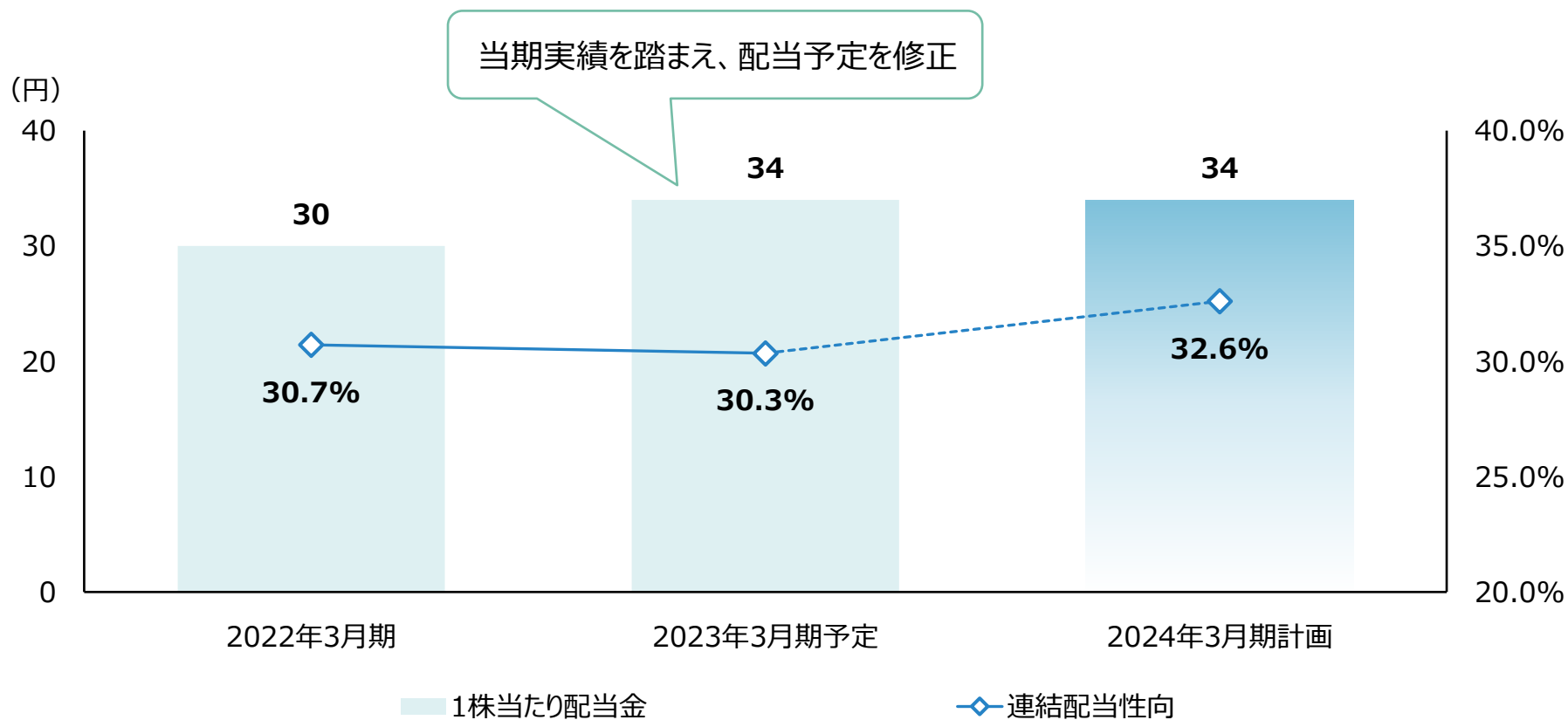
- ✓伊賀メタン発酵施設や三木バイオマスファクトリーの償却開始により、減価償却費が増加
- ✓エネルギー・資機材価格の高値継続、その他コストも負担が増加



4. 株主還元

株主還元

- 現中計期間（2023年～2025年3月期）は連結配当性向 **30%以上** を計画
- 将来的には成長投資も継続しつつ持続的かつ安定的な配当を実施する方針

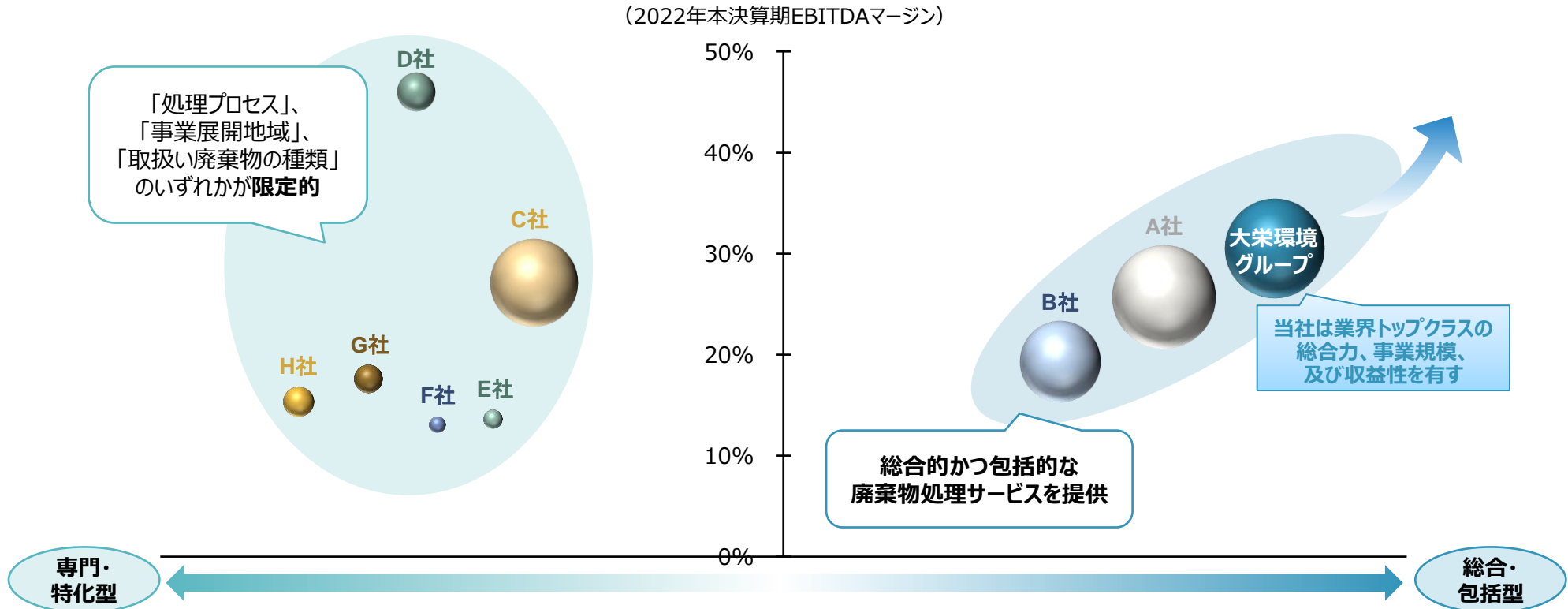


5. 成長戦略

業界ポジショニング

国内の廃棄物処理業界におけるポジショニング（当社分析）

当社は「処理プロセスのワンストップ体制」、「事業展開地域の広さ」、「取扱い廃棄物の種類の多様さ」の3つの観点から、業界内でユニークなポジションにあると認識しており、今後も総合力・事業規模・収益性を高め、業界内のさらなるプレゼンス向上を目指しています。



注： バブルの大きさは、2022年の本決算期EBITDAを示す

「総合・包括型」、「専門・特化型」の分析は、当社の認識に基づくイメージ図

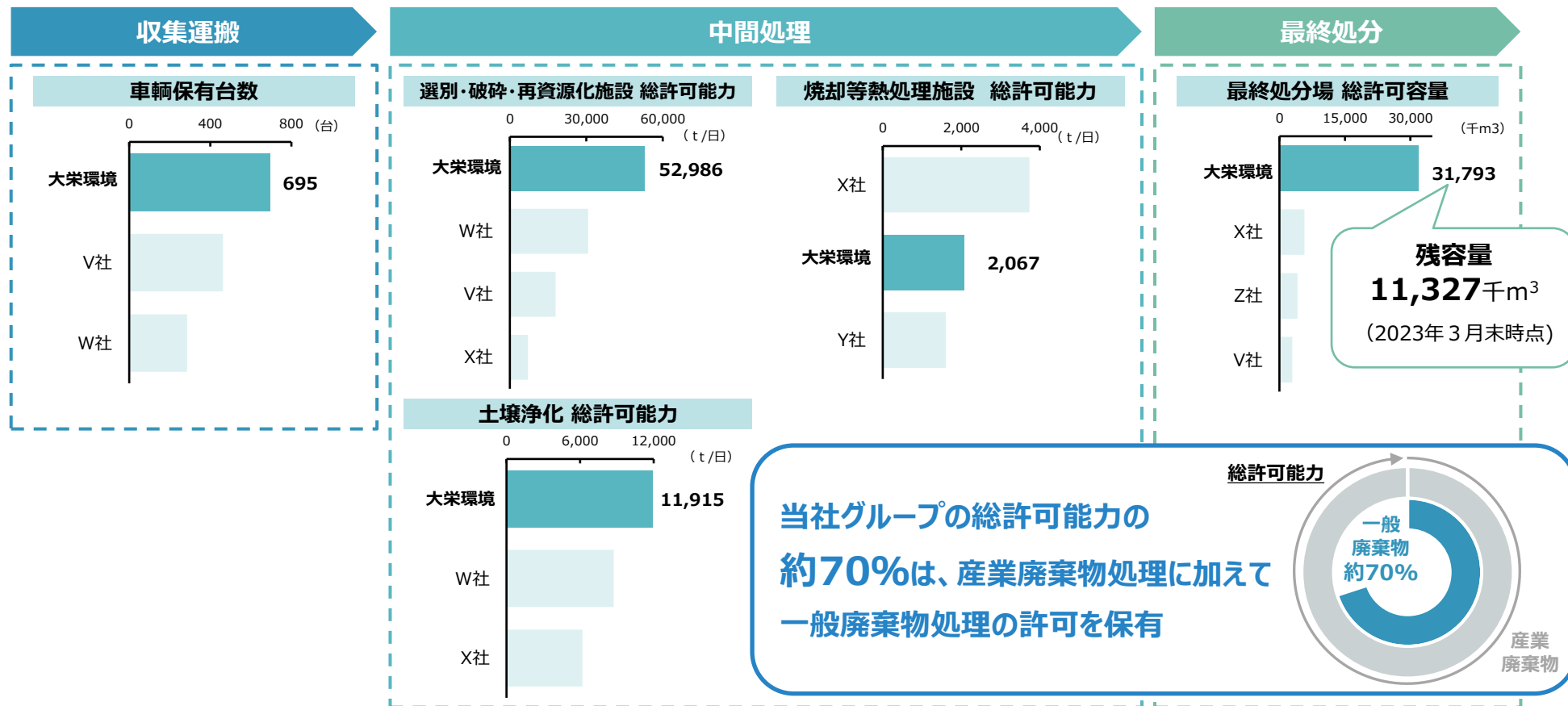
本図のEBITDA及びEBITDAマージンは、各社公表データを元に計算式に従い当社が独自に算出したものであり、各社が公表しているEBITDA及びEBITDAマージンの数値と異なる場合がある

一部の企業は、廃棄物処理事業に該当する事業セグメントの数値を使用

出所： 各社公表資料

キャパシティ他社比較*1

保有処理施設の総許可能力・容量*2 (2023年3月末時点)



*1: 当業界の内、上場会社・上場会社の子会社のデータ (情報が取得可能な各企業の非上場子会社の数値も合算) をもとに各項目について一覧を作成

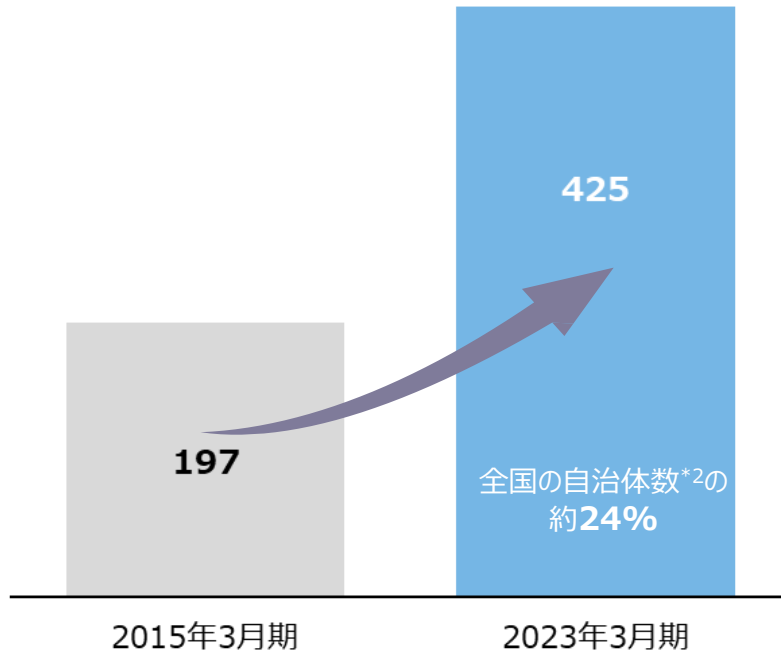
*2: 総許可能力・容量とは、各項目において都道府県等から許可を取得している処理能力 (最終処分場は容量ベースのため「許可容量」と記載) 大栄環境を除く他社については、公表されている各種データをもとに、当社の集計方法に基づき算出。時点は当社にて取得可能なデータの内、直近のものを使用

出所: 統合報告書、有価証券報告書、決算開示情報、ホームページ等の公開情報 (2023年3月時点)、(公財) 産業廃棄物処理事業振興財団「産廃情報ネット」、(一社) 日本災害対応システムズホームページ

取引自治体数

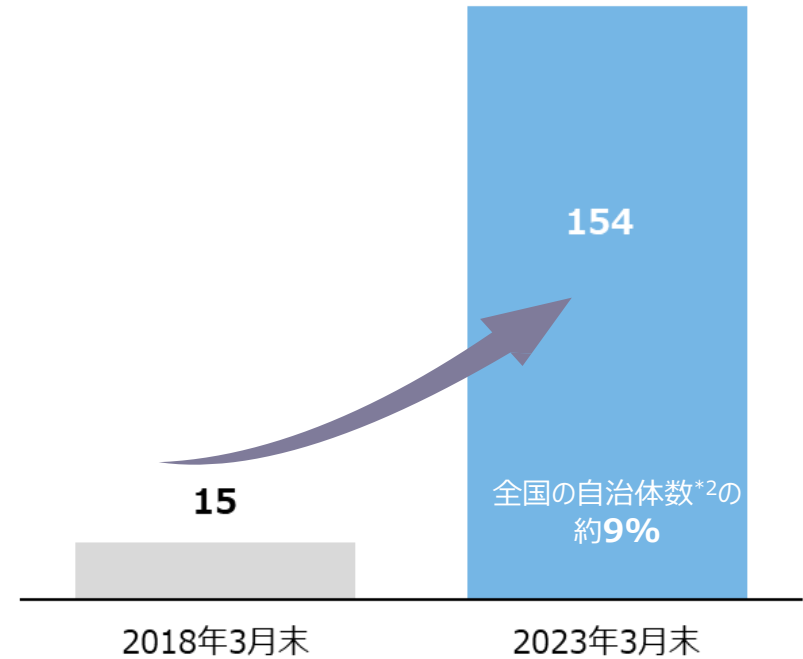
取引自治体数の推移・災害支援協定数の推移

取引自治体数*1の推移



- 2013年9月の三重エネルギープラザ竣工後、自治体との取引拡大が加速
- 施設トラブル時等、一時的な処理受託が増加し、実績や信頼を積み重ねる

災害支援協定数の推移



- 2019年3月期の大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号等の災害に関連して約60の被災自治体の災害廃棄物処理を実施
- 災害廃棄物処理実績のある当社との協定締結要望が急増

*1： 取引自治体数には、都道府県、東京23区を含み、また広域連合に関しては、構成する各市町村をそれぞれ1自治体としてカウントして算出

*2： 全国の自治体数は、1,788自治体（1,788自治体は、2023年4月1日時点の全国地方自治体1,718（東京23区除く）に、東京23区と47都道府県を合算したもの）

出所：政府統計の総合窓口（e-Stat）

日本の廃棄物処理業界の概観

当社の主要顧客分類と産業・一般廃棄物処理市場の概観

産業廃棄物（主に事業活動に伴う廃棄物）	廃棄物の分類	一般廃棄物（主に家庭廃棄物）
<ul style="list-style-type: none"> 製造メーカー：約30% ゼネコン：約30% 医療機関：約～10% 	<p>当社の主要顧客分類*1 (2023年3月期売上高構成比)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治体：約20% <ul style="list-style-type: none"> – 公民連携（PPP）の拡大によって自治体とのさらなる取引増大を目指す
<ul style="list-style-type: none"> 排出事業者 	<p>処理責任の所在</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治体
<ul style="list-style-type: none"> 392百万 t 	<p>国内廃棄物排出量 (2020年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 41百万 t
<p>産業廃棄物処理市場規模 2兆5,107億円</p>	<p>2020年度 当社推定のTAM*2</p>	<p>一般廃棄物処理市場規模*4 1兆6,904億円</p>
<p>リサイクル市場規模*3 3兆174億円</p>		<p>災害廃棄物処理市場規模 560億円</p>

*1： 主要顧客の業種別売上高の割合については、2023年3月期売上実績における概算値

*2： 各種資料より当社が算出した数値

*3： 動脈産業（製造業等製品を生み出す産業）の受入を除くリサイクルサービス・リサイクル素材の市場規模

*4： 建設改良費を除く

出所： 環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況（令和2年度速報値）」、「令和2年度一般廃棄物処理事業実態調査結果」、（公財）産業廃棄物処理事業振興財団「産廃情報ネット」
環境省「廃棄物処理技術情報」、環境省「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書（令和4年3月）」、環境省「日本の廃棄物処理（令和2年度版）」

日本の廃棄物処理業界の概観

当社の認識する業界プレイヤー

		収集運搬	中間処理			最終処分
			選別・破碎・再資源化	焼却等熱処理	土壌浄化	
産業廃棄物	民間処理事業者 ^{*1}	収集運搬事業社数 約11万社	中間処理施設 保有会社数 9,703社	焼却施設 保有会社数 147社	汚染土壌処理事業者 約152社	最終処分場 保有会社数 682社
	一般廃棄物	自治体 ^{*1}	999施設	1,087施設 公民連携（PPP）の 成長機会		1,075施設 （稼働中）

産業廃棄物業界

小規模企業から上場企業まで存在する超分散型市場
多数の中小企業の存在や事業会社によるノンコア事業の売却等、業界再編機運は高く、M&A機会も豊富

一般廃棄物業界

官から民への移行機運は高まりつつあるが、自治体が保有する施設での処理が大半である環境

*1： 産業廃棄物事業者数は、土壌浄化（2023年2月時点）、焼却等熱処理施設（2023年3月31日時点）を除き2022年5月16日時点、一般廃棄物における施設数は、2020年度実績
出所：（公財）産業廃棄物処理事業振興財団「産廃情報ネット」、（一社）土壌環境センター「会員企業一覧」、環境省「土壌汚染対策法に基づく汚染土壌処理業者一覧」、環境省「廃棄物処理技術情報」

日本及び欧米諸国における廃棄物処理市場

日本及び欧米諸国における廃棄物処理市場の概要

家庭から排出される廃棄物の民間委託が進んでいる欧米諸国では主要な大手上場企業が市場を占める割合が相対的に高い一方、民間委託が進んでいない日本では市場占有率の高い企業が存在していない状況です。また、欧米諸国では多くの廃棄物が最終処分によって処理されているのに対し、日本の廃棄物処理市場では、ほとんどの廃棄物が再資源化や焼却によりエネルギー回収等され、最終処分量を抑制しています。

地域	日本		米国		欧州	
市場規模*1 (2020年時点)	7.2兆円		13.1兆円		14.7兆円	
主要上場企業 2022年 本決算期売上高*2 (単位：億円)	DOWA HD (環境・リサイクル事業)	831	Waste Management社	23,646	Veolia Environnement社*3	15,824
	TRE HD	682	Republic Services社	14,895	Suez社*3	10,393
	ダイセキ	568	Waste Connections社	8,112		
	合計	2,082	合計	46,653	合計	26,217
	市場規模に占める割合*4	2.9%	市場規模に占める割合*4	35.7%	市場規模に占める割合*4	17.8%
最終処分の割合 (重量ベース、 2016年時点)						

注： 円換算に用いる為替レートは、2022年12月30日時点（1 USD=131.9JPY、1 EUR=140.9JPY）

*1： 市場規模は、MARKETSANDMARKETS「WASTE MANAGEMENT MARKET GLOBAL FORECAST TO 2026」参照（日本：25.9USD bil、米国：99.0USD bil、欧州：111.5USD bil）、ただし、日本市場については、P38記載の環境省出所の2020年度「産業廃棄物処理」、「リサイクル」、「一般廃棄物処理」、「災害廃棄物」の4市場の合算値である7.2兆円を使用。米国、欧州市場については、上記為替レートを使用し、日本円に換算。そのため、日本市場と米国及び欧州の市場規模の推計方法は、大きく異なる可能性があり、上記割合の比較に過度に依拠することはできない

*2： 日本企業3社は、2022年本決算期時点、米欧企業5社は2021年12月期時点

*3： 各社廃棄物処理事業関連セグメントの数値を使用（Veolia Environnement社：「Waste」、Suez社：「Recycling and Recovery」）、2022年1月27日、Veolia Environnement社はSuez社の株式95.95%をTOBにより取得

*4： 分母となる市場規模は各地域における全事業者の売上高の合計値ではなく推計値にすぎず、また、分子となる売上高と分母となる市場規模の対象期間が異なる等、実際の市場シェアを示すものではない

出所： QYReserch「Global Waste Treatment Disposal Sales Market Report 2017」、MARKETSANDMARKETS「WASTE MANAGEMENT MARKET GLOBAL FORECAST TO 2026」、会社公表資料、環境省「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書（令和4年3月）」、環境省「日本の廃棄物処理（令和2年度版）」

中期経営計画（2023年～2025年3月期）における数値目標

中計最終年度（2025年3月期）の数値目標

売上高 年平均成長率*1 (2022年～2025年3月期)	5～6%
EBITDAマージン (2025年3月期)	30%以上
営業利益率 (2025年3月期)	20%程度

数値目標の前提に織り込んでいない要素の例

M&A

廃棄物処理受託価格の
変動

*1： 2022年3月期から2025年3月期までの年平均成長率

中計目標達成に向けた取組み

受入量増加に寄与する大型設備の稼働・新設

資源循環施設の稼働

伊賀メタン発酵施設

2022年11月
稼働開始

- ✓ 有機性廃棄物（一般廃棄物・食品廃棄物・有機汚泥・廃液等）を発酵させてメタンを回収し、発電する施設
- ✓ 発電した電力は、固定価格買取制度（FIT）に基づき売電

✓ 処理能力 : 320 t / 日

発電能力 : 1,980 kW

年間発電量 : 15,000 MWh



伊賀堆肥化施設

2022年10月
稼働開始

- ✓ 食品廃棄物から堆肥を製造する施設
- ✓ 上記メタン発酵施設と同敷地内に設置

✓ 処理能力 : 92 t / 日



熱処理施設の新設

三木バイオマスファクトリー

2023年6月
稼働開始予定

- ✓ 地域から発生する廃木材や食品残渣等のバイオマス資源と様々な廃棄物を混焼する熱処理施設

✓ 処理能力 : 440 t / 日

発電能力 : 11,700 kW
(一般家庭約28,000軒分の
使用量に相当)



現在（建設中）

熱処理施設のグループ処理能力倍増+脱炭素化への寄与の両立

グループ熱処理能力

2022年3月期末

2,067 t / 日

2030年3月期末（目標値）

4,000 t / 日

- 焼却せざるを得ない廃棄物は、エネルギー回収により脱炭素化に寄与
- CCU*1導入への調査検討を実施

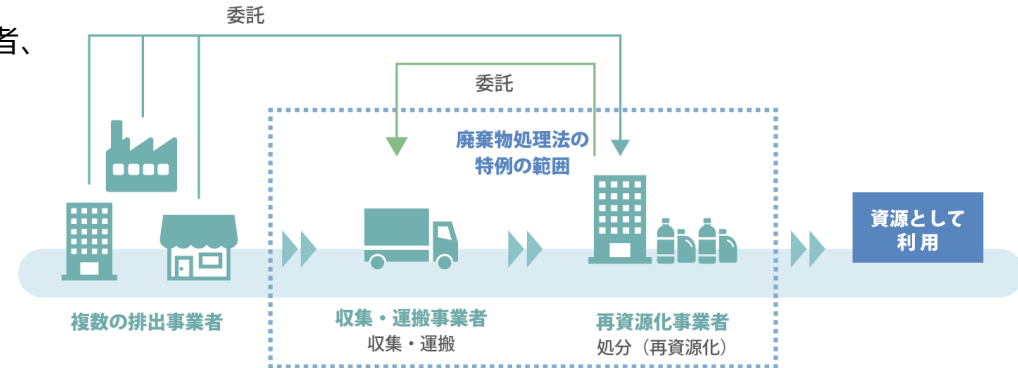
*1: CCUは、「Carbon dioxide Capture and Utilization」の略称で、従来の化石燃料由来の燃料や化学品等の製品を、CO2を原料として製造した製品へと置き換えることで低炭素化を図るもの

カーボンニュートラルに向けた取組み

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に関する取組み

- ✓ 国内におけるプラスチックの資源循環を一層促進するため、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が2022年4月1日施行
 - プラスチックのライフサイクル全体において関わりのある、全ての事業者、自治体、消費者の相互連携による資源循環への取組みを促進

2023年4月「再資源化事業計画」認定取得
プラスチックの資源循環を積極的に推進



脱炭素化・資源循環に向けた取組み事例

2024年3月：実証終了予定

- ✓ 神鋼環境ソリューション等と**国内初**となる廃プラスチックのガス化及びメタノール化実証事業を2022年8月に開始、2024年3月に実証を終了し、商用化検討ステージへ移行予定
- ✓ これまで廃棄されていたプラスチックについて、ケミカルリサイクルによる資源循環システム構築を目指す

2021年10月：実証事業開始

- ✓ 日用品のつめかえパックを回収してリサイクルし、再びつめかえパックに戻すことに挑戦するプロジェクト
- ✓ 自治体と、花王等をはじめとする製造・販売・回収・再生に関わる18企業が協働する**全国に先駆けた試み**

出所：環境省特設サイト「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」

公民連携（PPP）事業

公民連携（PPP）事業の事例

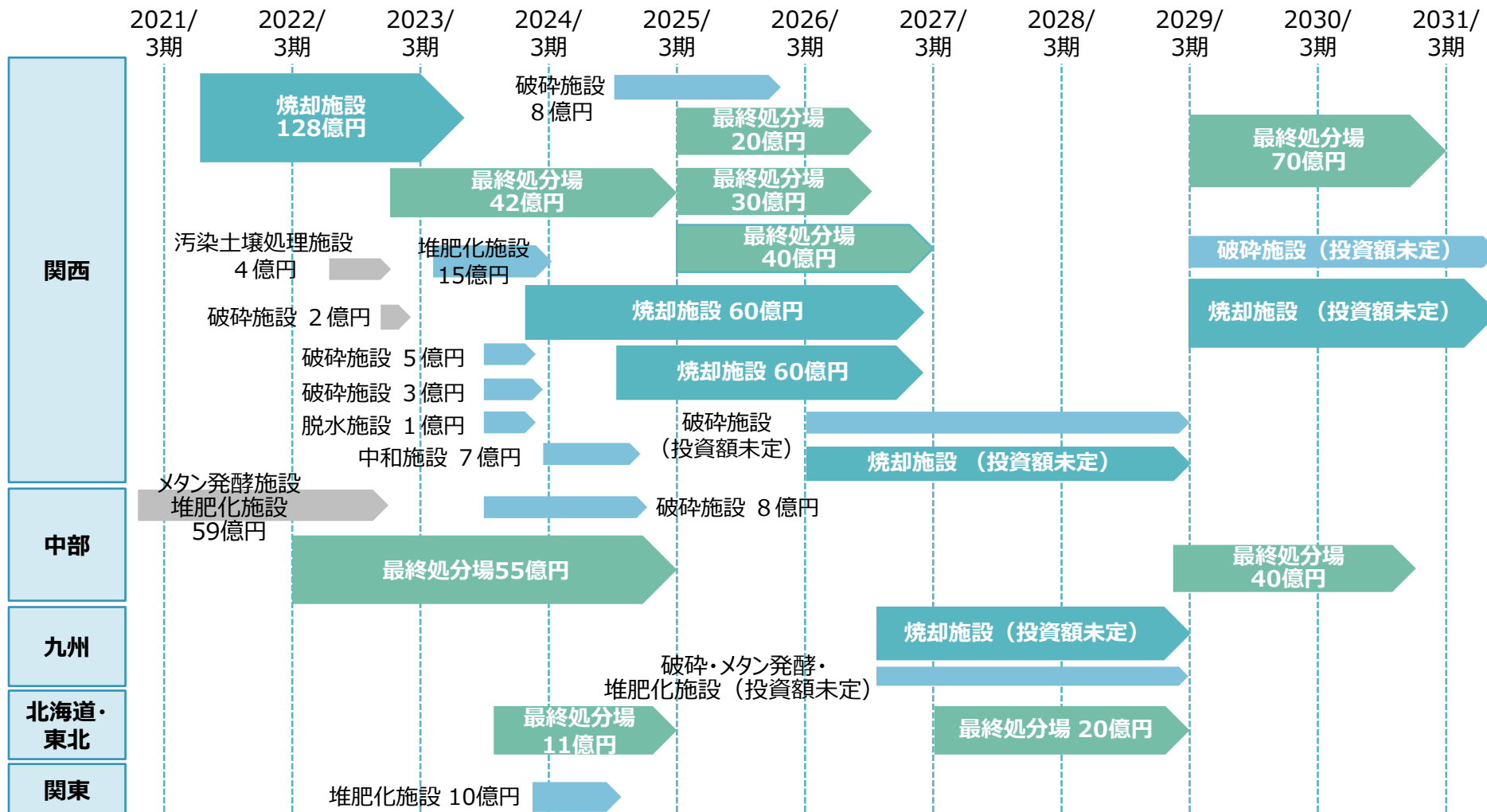
先行事例①：熊本県上益城郡		先行事例②：兵庫県相生市		先行事例③：大阪府泉北郡忠岡町	
協定締結時期	✓ 2021年10月	協定締結時期	✓ 2021年10月	協定締結時期	✓ 2023年2月
事業場所	✓ 熊本県上益城郡御船町内	事業場所	✓ 兵庫県相生市内	事業場所	✓ 大阪府泉北郡忠岡町内
施設の概要	【処理規模】 ✓ リサイクル施設 900 t / 日 ✓ エネルギー回収施設 400 t / 日 ✓ メタン発酵施設 30 t / 日 ✓ 堆肥化施設 60 t / 日	施設の概要	【処理規模】 ✓ リサイクル施設 900 t / 日 ✓ エネルギー回収施設 220 t / 日	施設の概要	【処理規模】 ✓ リサイクル施設 検討中 ✓ エネルギー回収施設 220 t / 日
処理対象物	✓ 一般廃棄物（上益城郡5町ほか）、産業廃棄物、災害廃棄物	処理対象物	✓ 一般廃棄物（相生市ほか）、産業廃棄物、災害廃棄物	処理対象物	✓ 一般廃棄物（忠岡町）、産業廃棄物、災害廃棄物

2030年3月期までに、全国12か所で公民連携協定を締結、そのうち4か所においては稼働開始を目指す



将来の設備投資計画

設備投資計画



注： 2023年3月31日時点、三重県は中部地方に含む

M&Aの重点対象

当社保有施設が少ない地域において、安定した顧客基盤を有する中間処理事業者をM&Aのメインターゲットとしております。

豊富なM&A機会の存在

■ 売上高10億円以上 ■ 売上高10億円未満

日本の廃棄物処理業界における総事業売上高10億円以上の事業者の割合（2010年度）

16%

84%

	収集運搬	中間処理		最終処分
		選別・破碎・再資源化	焼却等熱処理	
北海道・東北		✓✓✓	✓✓	✓
関東	✓	✓✓✓	✓✓	✓
中部		✓✓✓	✓✓	✓
関西		✓✓✓	✓✓	✓
中国・四国		✓✓✓	✓✓	✓
九州		✓✓✓	✓✓	✓

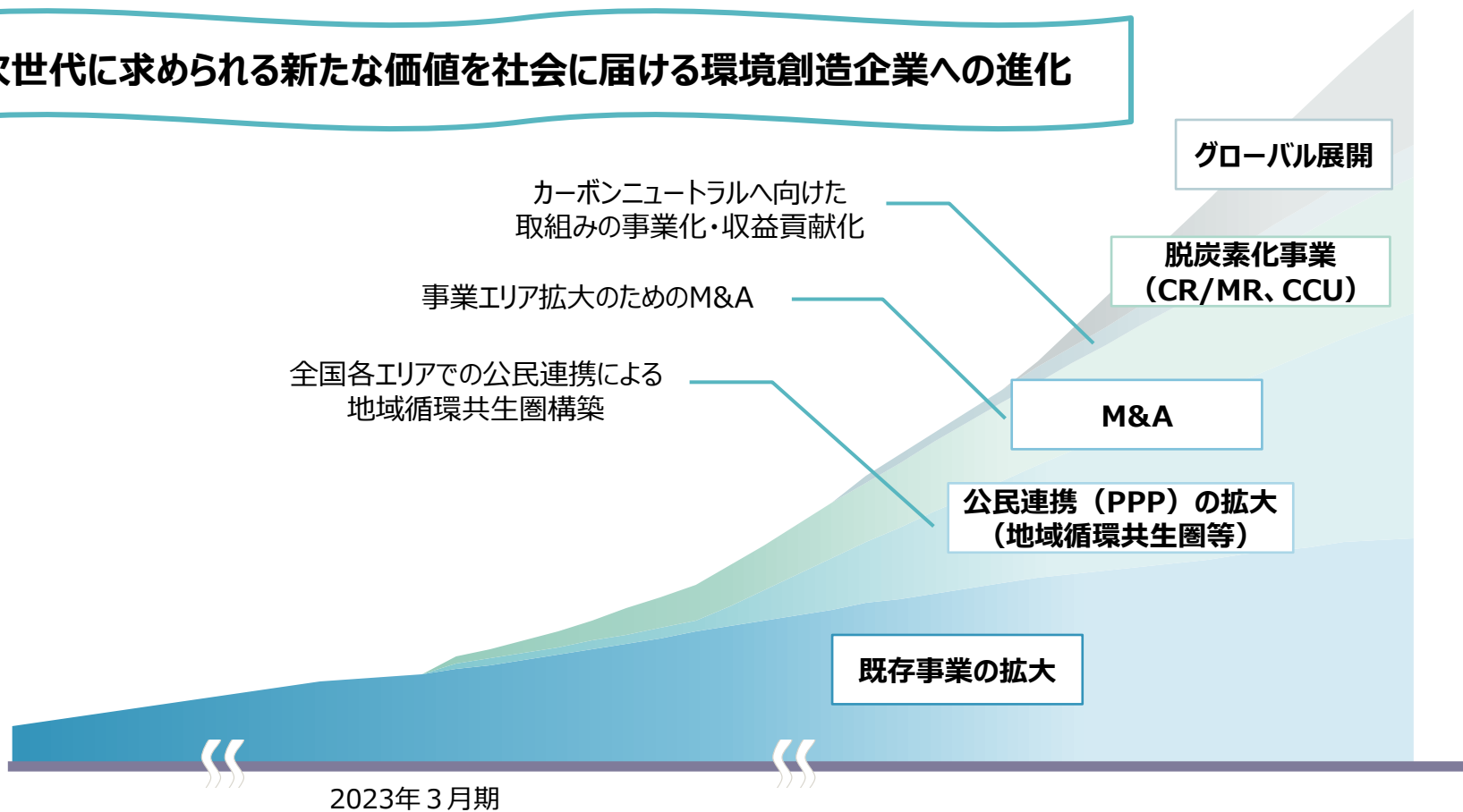
- 地域別・廃棄物処理施設別のカテゴリで、「✓」数によってM&Aの重点的な対象を示すイメージ図
- 現在の再資源化施設の保有数： > >

出所：環境省「平成23年度産業廃棄物処理業実態調査業務」

大栄環境グループの将来像

当社は、既存事業の拡大とともに、積極的なM&Aや全国各エリアでの公民連携事業、カーボンニュートラルに向けた取組みの推進等を通して、次世代に求められる新たな価値を社会に届ける環境創造企業への進化を目指します。

次世代に求められる新たな価値を社会に届ける環境創造企業への進化



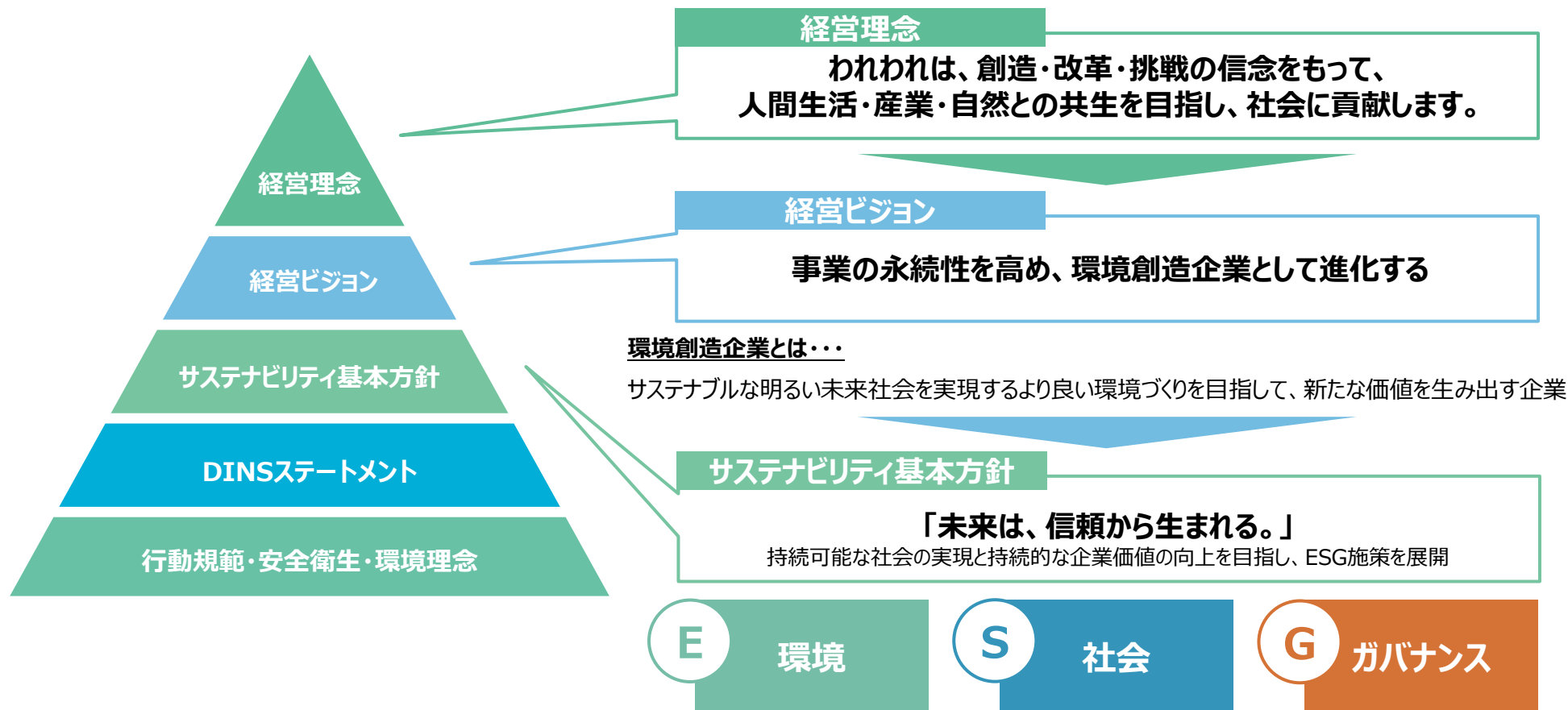
注： CR=ケミカルリサイクル、MR=マテリアルリサイクル

6. Appendix

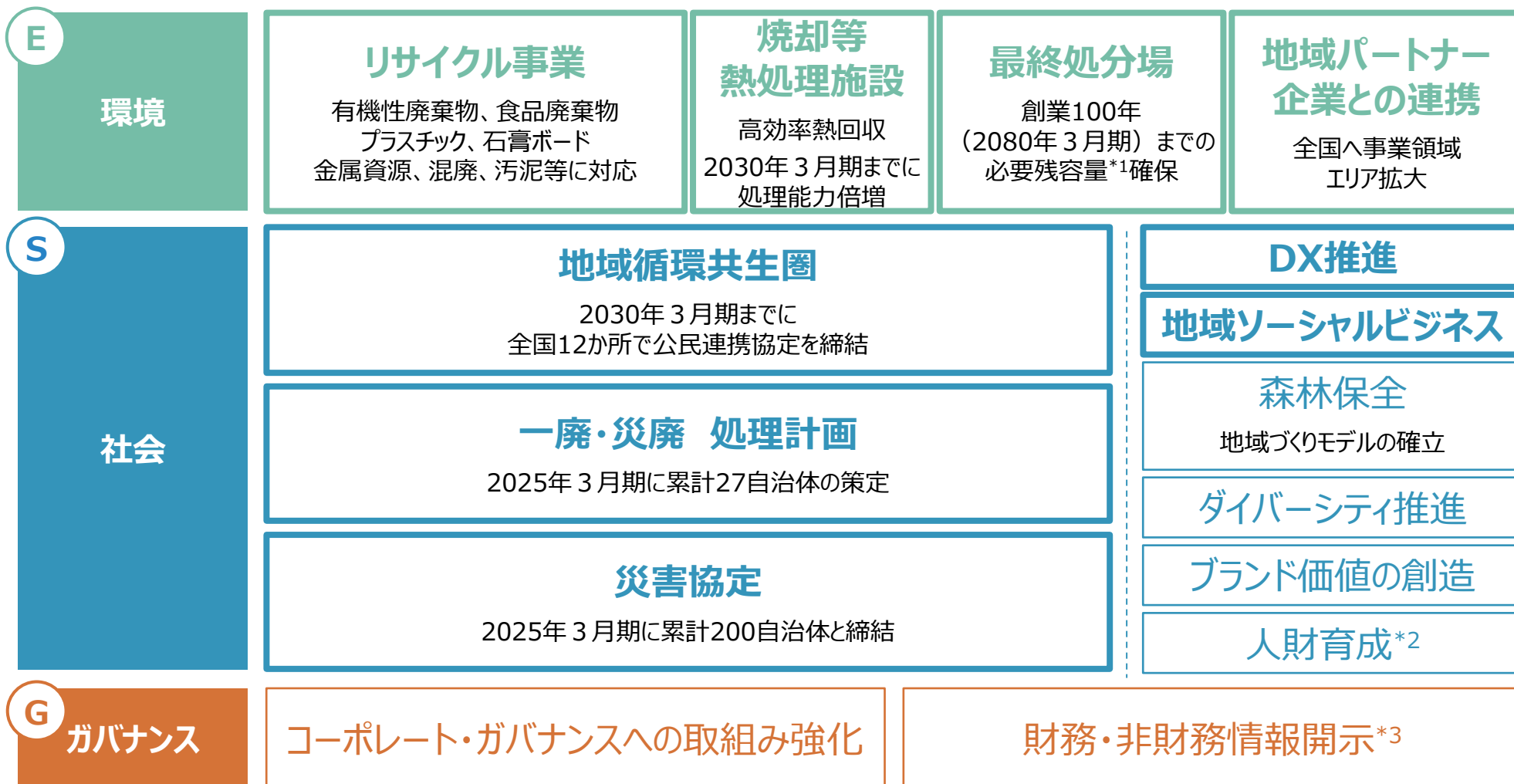
アイデンティティ

当社は、100年企業への基盤づくりを進め、経営ビジョンに向かって着実に歩んでいます。当社の事業は、決して止めることができない重要な社会インフラであり、2050年カーボンニュートラルに向かって社会システムが急速に変化する中で、長期的視点を持って、社会課題の解決に繋がるESG（環境・社会・ガバナンス）施策に、これまで以上に取り組んでいきます。

廃棄物処理・資源循環のあり方を変えていくために、多様なパートナーとの共創、地域循環共生圏・脱炭素化・DX等、必要な投資を積極的に行い、最も強みとする地域社会との関わりをより深めて、次世代に求められる新たな価値を社会に届けます。



価値創造に向けたESG施策



注：太枠は「成長戦略に関わるESG施策」、細枠は「経営基盤強化に関わるESG施策」

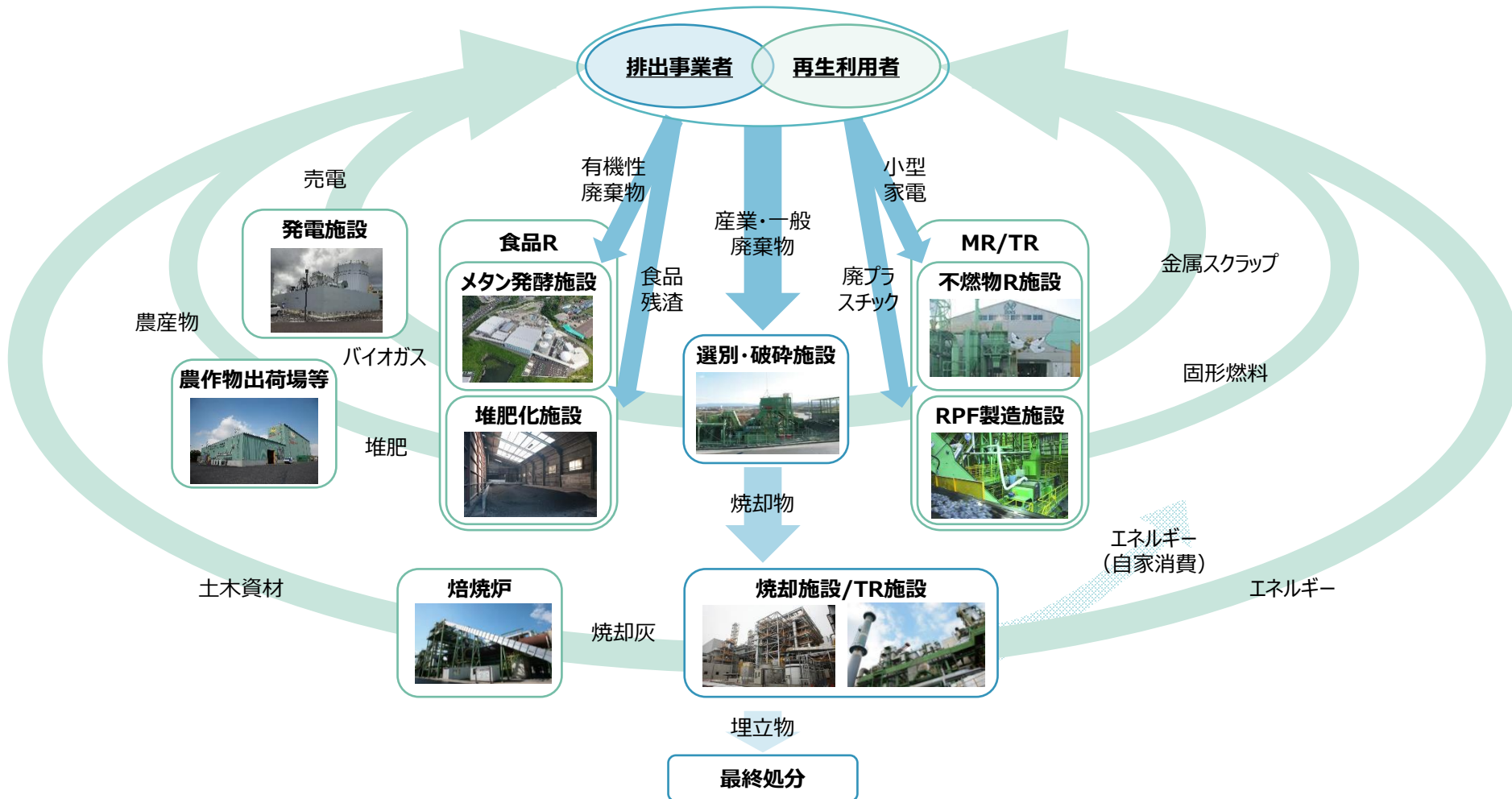
*1：必要残容量とは、資源循環システムの整備が想定通り進んだ場合における2080年3月期までの想定埋立量を前提とした最終処分場の残容量

*2：人財育成はガバナンスから社会へ移行いたしました

*3：ガバナンスのTCFDに基づく情報開示は項目名称を財務・非財務情報開示に変更いたしました

サーキュラーエコノミーへの取り組み

大栄環境グループにおけるサーキュラーエコノミーのイメージ図

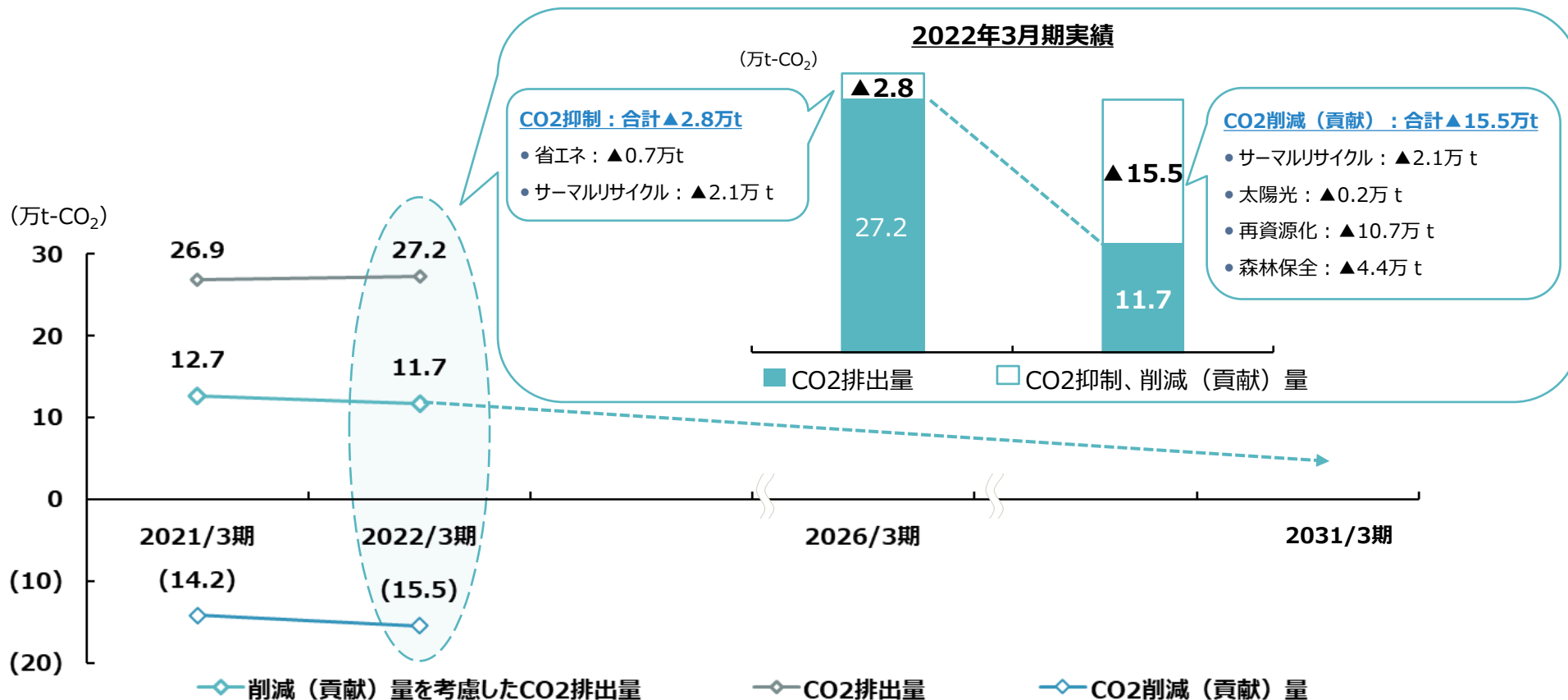


注： R=リサイクルの略称、TR=サーマルリサイクル
RPF=「Refuse Paper & Plastic Fuel」、廃プラスチック等を原料にした固形燃料

CO2削減に向けた取組み

大栄環境グループの事業活動による温室効果ガスの排出・抑制・削減

大栄環境グループは、CO2排出量の推移を管理し、その評価・要因分析を行っています。2050年のカーボンニュートラルに向けて、CO2の抑制、削減（貢献）につながる取組みを続け、社会全体のCO2削減に貢献してまいります。

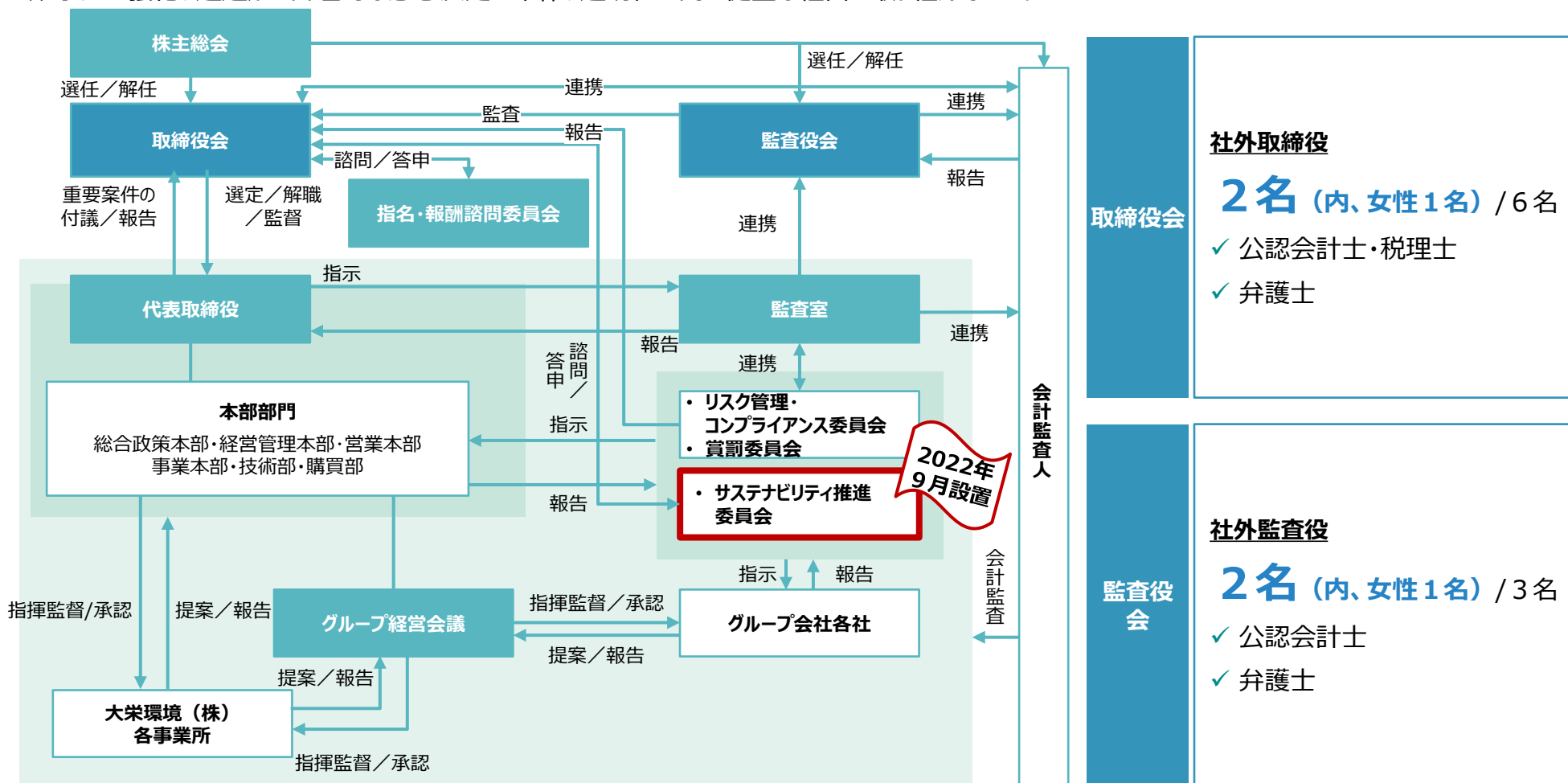


注： CO2排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」の「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に基づいて算出
CO2削減（貢献）量は、それぞれの活動量にメーカーや国、業界等が公表する原単位を乗じて算出

コーポレート・ガバナンス体制

コーポレート・ガバナンス体制の概要

お客様や社会からの信頼に応え、企業価値を上げていくために「経営の公正性と透明性」、「取締役会・監査役会の監督機能の充実」を図り、企業競争力の強化、迅速かつ合理的な意思決定の確保、透明性の高い健全な経営に取り組んでいます。



ダイバーシティの推進

大栄環境グループのダイバーシティの推進の取組実績・目標

当社は、新しい価値創造に貢献できる多様な人づくりを通じてダイバーシティの推進に取り組んでいます。特に女性活躍推進を柱として、多様な人材が活躍できる職場の実現を目指しています。

女性活躍推進

- ✓ **新卒採用総合職の採用者（4年制大学以上の新卒・総合職）に占める女性比率（継続目標）**
 - 2024年3月期：**30%以上**
(2023年3月期入社：**26.7%**)
- ✓ **管理職の女性比率（目標）**
 - 2024年3月期：**4%以上**
(2023年3月期：**3.6%**)
- ✓ 育児等に係る休暇制度拡充、保育に関する手当等の検討、育児・子育て支援の一環として外部認定制度の取得を目指す

障がい者雇用

- ✓ **障がい者雇用率**
 - **3.78%**(2022年6月1日時点) > 法定雇用率2.3%
 - 2025年3月期中（目標）：**4%以上**

【ご参考】EBITDAの調整過程

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期
営業利益	12,840	16,623
減価償却費	6,249	5,413
のれん償却額	736	212
EBITDA	19,826	22,250
EBITDAマージン	30.5%	32.9%

【ご参考】ROEの調整過程

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,870	10,494
自己資本*1	56,324	69,115
ROE	15.7%	15.2%

*1： 自己資本=資本金+資本剰余金+利益剰余金+その他の包括利益累計額
2022年3月期及び2023年3月期の期首・期末平均

【ご参考】ROICの調整過程

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期
営業利益	12,840	16,623
のれん償却額	736	212
実効税率	30.6%	30.6%
NOPAT (税引後営業利益)	9,419	11,681
有形固定資産	60,286	69,943
その他の固定資産	17,977	16,529
流動資産 (現金及び預金除く)	13,525	13,964
流動負債 (有利子負債除く)	9,625	11,000
期首投下資本	82,164	89,436
ROIC	11.5%	13.1%

注： バランスシート項目は期首時点

【ご参考】ネットD/Eレシオの調整過程

(百万円)	2022年 3月期	2023年 3月期
ネット有利子負債	21,518	9,987
自己資本 ^{*1}	59,743	78,487
ネットD/Eレシオ	0.4x	0.1x

*1： 自己資本=資本金+資本剰余金+利益剰余金+その他の包括利益累計額



資源に変えるチカラ、自然に還すチカラ。

大栄環境株式会社

本資料に関するお問い合わせ先

総合政策本部 IR部

TEL : 078-857-6600

E-mail : ir@dinsgr.co.jp

URL : <https://www.dinsgr.co.jp/>

免責事項

本資料に掲載されている当社の計画、見通し、戦略等は、現在入手可能な情報から得られた当社の経営判断に基づくものであり、様々なリスクや不確定な要素等の要因により、実際の業績等は当社の見通しと異なる可能性があります。